日本子ども社会学会
第 31 回大会　プログラム

2025 年 6 月 7 日（土）・8 日（日）

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

日本子ども社会学会　第31回大会　プログラム

1．期日

2025年6月7日（土）・8日（日）　　（両日とも対面で実施）

2．会場

マリオス（盛岡地域交流センター）18階
※ナーサリールーム： アイーナ （岩手県民情報交流センター） 809 号室

3．日程

【前　日　6月6日（金）】
17:00　～　19:00　理事会・各種委員会（アイーナ7階　各会議室）

【1日目　6月7日（土）】
10:00　～　　受付（18階　エレベーターホール）
10:30　～　12:00　自由研究発表Ⅰ（18階　各会議室）
12:10　～　13:00　総会（18階　188会議室）（学会賞授賞式を含む）
13:00　～　14:10　昼食
13:00　～　14:10　新理事会
14:10　～　15:40　自由研究発表Ⅱ（18階　各会議室）
15:50　～　17:50　テーマセッション①（18階　183・184会議室）
15:50　～　17:50　ワークショップ（18階　185・186会議室）
15:50　～　17:50　ポスターセッション（18階　188会議室（兼会員控室））

【2日目　6月8日（日）】
9:40　～　　受付（18階　エレベーターホール）
10:00　～　12:20　シンポジウム（18階　188会議室）
12:20　～　13:50　昼食
12:20　～　13:50　新各種委員会
13:50　～　15:20　自由研究発表Ⅲ（18階　各会議室）
15:30　～　17:30　テーマセッション②（18階　181会議室）
15:30　～　17:30　ラウンドテーブル（18階　各会議室）

４．大会参加申し込み（事前申し込み）・大会参加費

（１）大会参加申し込み（事前申し込み）

大会ホームページ（https://www.js-cs.jp/annualmeeting2025/）で，事前に参加申込みをしてくださるようお願いします。

準備の都合上，参加申込み期間は，２月１日（土）～５月 23 日（金）といたします。非会員の方も「臨時（当日）会員」としての参加申込みができます。

（２）大会参加費

一般会員：4,000 円	一般会員（年収 300 万円以下）：2,000 円
臨時（当日）会員：4,000 円	臨時（当日）会員（年収 300 万円以下）：2,000 円

参加希望者は申込みを行った上で，事前に下記口座に振り込むか，大会当日に会場にて大会参加費を現金でお支払い下さい。事前振込の場合は参加申込みフォームを送信してから一週間程度を目処にしてお振込みください。なお,振込手数料は各自でご負担願います。

※当日窓口での混雑を防ぐため，できる限り事前の振り込みにご協力をお願いします。

【大会参加費振込先】岩手銀行　緑が丘支店　普通　2110550
日本子ども社会学会　第 31 回大会　事務局　井上一彦

５．懇親会

開催いたしません。

６．発表時間

個人発表：発表 20 分・質疑応答 5 分
共同発表：発表 40 分・質疑応答 10 分
（ただし，発表者が１名の場合は，個人発表に準じます。）

７．発表取り消し

発表の取り消し，および発表日時の変更は原則として認めていません。
発表の取り消しの場合は，早急にお知らせください。

８．当日配布資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合は，30 部以上ご用意ください。
大会会場でのコピーはできません。

９．発表に際しての注意

発表の際，プロジェクターは各室に備え付けてあります。
パソコンについては，ご自身のものをご準備ください。

１０．クローク

18 階　180 会議室（兼大会本部）

１１．会員控室

総会・ポスターセッション（1 日目），シンポジウム（2 日目）を行う 18 階　188 会議室といたします（抜刷・資料交換コーナーも設けます）。
なお，20 階には展望室もあり，無料で使えるスペースもございます。

１２．書籍販売

第 31 回大会は会場にて書籍販売を行いません。

１３．昼食

昼食には，マリオス 3 階正面玄関を出て，「さんさこみち」（東西自由通路）を通って徒歩約 3 分のところにある盛岡駅及び隣接商業ビル「フェザン」が便利です（5 ページ地図参照）。レストランのほかに，お弁当の販売も充実しています。

１４．大会本部

18 階　180 会議室（兼クローク）に設けています。

１５．大会実行委員会連絡先

日本子ども社会学会第 31 回大会実行委員会
E-mail：kosha31iwate@gmail.com

大会当日（6 月 7 日・8 日）の緊急電話連絡先は，大会 1 週間前を目処に大会ホームページにてお知らせいたします。

マリオス（大会会場）・アイーナ（ナーサリールーム）へのアクセス

〇最寄駅（盛岡駅）からのアクセス

・【電車】JR／IGR「盛岡駅」下車　西口から徒歩約３分

・【バス】「盛岡駅西口」下車　徒歩１分

・【自動車】盛岡 I.C.より約 10 分／盛岡南 I.C.より約９分　※無料駐車場はございません。

※マリオスウェブサイト参照

〇最寄駅（盛岡駅）へのアクセス

【鉄道（JR)】（新幹線はやぶさ）

東京駅 → 盛岡駅　約２時間 10 分

仙台駅 → 盛岡駅　約 40 分

新函館北斗駅 → 盛岡駅　約２時間

【飛行機】

札幌（新千歳）　→　花巻　約１時間

名古屋（小牧）　→　花巻　約１時間 10 分

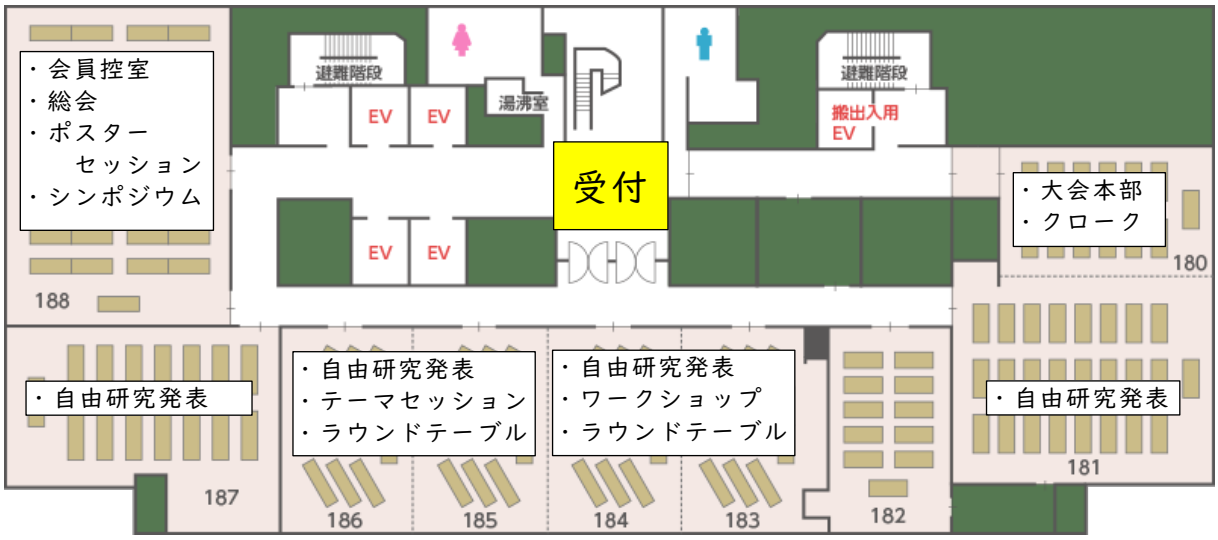
大阪（伊丹）　→　花巻　約１時間 35 分

神戸　→　花巻　約１時間 25 分

福岡　→　花巻　約１時間 50 分

花巻空港より盛岡駅まで

会場マップ（マリオス 18 階）



会場マップ（アイーナ 8 階）

１日目　６月７日(土)

午前

【自由研究発表Ⅰ】

2025年6月7日（土）10時30分～12時00分
181会議室

Ⅰ－1　【　子どもと学校Ⅰ　】

司会　　坪井　瞳（東京成徳大学）

10時30分～10時55分
居場所スタッフによる生徒の「課題」とは何か

中西　美裕（大阪大学大学院）

10時55分～11時45分
学校教育において外国ルーツの子どもはなぜ周縁化されるのか
―ＤＥＩ＋Ｂが問う公教育（公立校）再構築の道筋（その１）―

◯角替　弘規（静岡県立大学）
◯馬居　政幸（静岡大学（名））
◯米津　英郎（富士宮市立黒田小学校）

11時45分～12時00分
総括討論

【自由研究発表Ⅰ】

2025 年 6 月 7 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分
183・184 会議室

Ⅰ－2　【　家庭環境と子どもの生活　】

司会　　田中　理絵（西南学院大学）

10 時 30 分～10 時 55 分
ひとり親家庭を「語る」こと

西村　尋（大阪大学大学院）

10 時 55 分～11 時 20 分
両親の帰宅時間と子どもの生活時間との関連

笹田　照央（京都大学大学院）

11 時 20 分～11 時 45 分
おこづかい制によって子どもの購買行動習慣は変わるのか

松川　誠一（東京学芸大学）

11 時 45 分～12 時 00 分
総括討論

【自由研究発表Ⅰ】

2025 年 6 月 7 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分
185・186 会議室

Ⅰ－3　【　子どもの遊び集団と環境　】

司会　　矢島　毅昌（島根県立大学）

10 時 30 分～10 時 55 分
子どもと大学生ボランティアの「ナナメの関係」
―非パターナリスティックな関係構築の実践―

中濃　優大（京都大学）

10 時 55 分～11 時 20 分
東京都江東区学童保育児童の外あそび研究報告

門倉　洋輔（小田原短期大学）

11 時 20 分～11 時 45 分
日本の保育者は森での保育活動をどう捉えているのか？
―都市部園と山間部園の比較―

◯加藤　望（名古屋学芸大学）
肥田　武（一宮研伸大学）
中坪　史典（広島大学大学院）

11 時 45 分～12 時 00 分
総括討論

【自由研究発表Ⅰ】

2025 年 6 月 7 日（土）10 時 30 分～12 時 00 分
187 会議室

Ⅰ－4　【　教員・保育者　】

司会　　香曽我部　琢（宮城教育大学）

10 時 30 分～10 時 55 分
元教員に対するナラティブ・アプローチ

伊勢本　大（松山大学）

10 時 55 分～11 時 20 分
保育者の職の継続（Ⅸ）
―公立幼稚園における異動をめぐる葛藤とその克服に着目して―

中井　雅子（元十文字学園女子大学）

11 時 20 分～11 時 45 分
保育現場におけるジェンダー・ダイナミクス

新庄　洸（関西大学大学院）

11 時 45 分～12 時 00 分
総括討論

１日目　６月７日(土)

午後

【自由研究発表Ⅱ】

2025 年 6 月 7 日（土）14 時 10 分～15 時 40 分
181 会議室

Ⅱ－1　【　子どもと学校Ⅱ　】

司会　　梅田　崇広（愛媛大学）

14 時 10 分～14 時 35 分
教師による不登校児童生徒理解

佐々木　龍平（別府大学）

14 時 35 分～15 時 25 分
「周辺化される「目立たない子どもたち」」をどう捉え，包摂するか
―中堅進学校の高校における包摂の意味を問う―

〇黒田　協子（上智大学大学院）
〇冨貴　大介（神奈川県立伊志田高等学校）

15 時 25 分～15 時 40 分
総括討論

【自由研究発表Ⅱ】

2025 年 6 月 7 日（土）14 時 10 分～15 時 40 分
183・184 会議室

Ⅱ－2　【　親子関係　】

司会　　木村　治生（ベネッセ教育総合研究所）

14 時 10 分～14 時 35 分
発表なし

14 時 35 分～15 時 00 分
親の離婚と子どもの結婚観のゆらぎ

◯小西　凌（三重大学大学院）
笹田　照央（京都大学大学院）

15 時 00 分～15 時 25 分
世襲・階層再生産の過程における進路選択と親子関係
―医学部受験生へのインタビューから―

藤村　達也（奈良女子大学）

15 時 25 分～15 時 40 分
総括討論

【自由研究発表Ⅱ】

2025 年 6 月 7 日（土）14 時 10 分～15 時 40 分
185・186 会議室

Ⅱ－3　【　子どもの福祉と社会教育活動　】

司会　　西本　佳代（香川大学）

14 時 10 分～14 時 35 分
児童養護施設退所者の職業経験

西林　佳人（関西大学大学院）

14 時 35 分～15 時 00 分
児童養護施設経験者にとって「自立」とはいかなる経験か

〇三品　拓人（筑波大学）
宇田　智佳（日本学術振興会特別研究員・関西大学）

15 時 00 分～15 時 25 分
児童養護施設と児童相談所における連携の構築

山口　季音（至誠館大学）

15 時 25 分～15 時 40 分
総括討論

【自由研究発表Ⅱ】

2025 年 6 月 7 日（土）14 時 10 分～15 時 40 分
187 会議室

Ⅱ－4　【　子ども文化　】

司会　　渡邊　真之（お茶の水女子大学）

14 時 10 分～14 時 35 分
お伽運動が日本の動物園に与えた影響

原賀　いずみ（西南学院大学（非））

14 時 35 分～15 時 00 分
戦後における少女雑誌の普及と読者の様相
―学習研究社の発刊雑誌を中心に―

田中　卓也（育英大学）

15 時 00 分～15 時 25 分
子ども文化と怪異

上林　梓（大阪大学）

15 時 25 分～15 時 40 分
総括討論

【テーマセッション①】

2025 年 6 月 7 日（土）15 時 50 分～17 時 50 分
183・184 会議室

現代社会における子ども文化を展望する

～今後の子ども文化研究における方法の検討とともに～

企画担当者：池田　曜子（流通科学大学）
角替　弘規（静岡県立大学）

【趣旨説明文】

総務省統計局によれば 2022 年時点での 15 歳未満の総人口に占める割合は 11%を占めるに過ぎず少子化の傾向に歯止めがかからない状態にある。総人口に占める子どもの割合が減少しているとはいえ，研究対象としての魅力が失われるわけではなく，むしろこうした少子化の傾向が継続する中だからこそ，子ども文化のありようと社会との関係性を緻密に見つめていく必要があると思われる。

一方で麻生（2023）が指摘するように，これまで日本社会の中で連綿と培われてきた異年齢集団を中心とした群れ遊びは姿を消し，子ども社会の外にある市場経済原理に主導される遊びへとその様相を大きく変貌させた。1980 年代から爆発的な流行を見せたビックリマンシール以降，様々な遊びが大人側から提案されているが，ポケモンやトレカといった「遊び」は遊戯者間での交換や闘争を誘発し，市場経済も絡まりながら子どもと大人の境界線を曖昧にしているようにも思われる。また携帯型のゲーム機やスマートフォンなどの IT 機器の所有と操作を前提とした電子ゲームの影響は多方面に及んでいる。子どもは育つ時代によって全く異なる生活習慣や対人対物感覚，思考様式を身に付ける（麻生，前掲書）とされるが，では今日の子どもはどのような感覚や思考を身に付けていると考えられるだろうか。

また，子ども遊びと子ども文化のありようを分析・考察しようとする際には，必ず研究者がその対象を観察する必要がある。どのようにして研究者はそこに関わっていけばいいのだろうか。現代の子どもの遊びの特徴について整理しつつ，それらに対するアプローチの方法について議論することで，これからの子ども文化のありようとそれらへの接近方法について検討したい。

司　　会：　池田　曜子（流通科学大学）
　　角替　弘規（静岡県立大学）
報　告　者：　藤崎　亜由子（奈良教育大学）
　　山口　真希（花園大学）
　　吉岡　一志（山口県立大学）
指定討論者：　麻生　武（奈良女子大学）

＜参考文献＞

麻生武（2023）『6 歳と 3 歳のおまけシール騒動 贈与と交換の子ども経済学』新曜社

【ワークショップ】

2025 年 6 月 7 日（土）15 時 50 分～17 時 50 分
185・186 会議室

岩手の民話と子どもの現在

―民話語りを一緒に楽しもう！―

企画担当・司会進行：鵜野　祐介（立命館大学）
話題提供者：大平　悦子（日本民話の会会員，遠野出身の語り部）
　　前川　さおり（遠野市役所文化課職員）
　　澤口　杜志（うすゆきそう文庫代表，盛岡の語り部）
サポーター：立花　和子（遠野の語り部）
　　細越澤　史子（遠野の語り部）
　　藤澤　陽子（「語りの会風楽堂」主宰，盛岡の語り部）
　　加藤　ゆりいか（『北上市史　民俗編』「口承文芸」担当）

【企画趣旨】

『遠野物語』で広く知られる遠野をはじめ，民話の故郷とも称される東北・岩手において，今日の子どもたちが民話を聴いたり語ったりする体験の場はどのように設けられているのだろうか。まず，遠野や盛岡をはじめ岩手県内の幼稚園・小学校，図書館・博物館，地域おはなし会などでの様々な活動についての現状報告をお聞きする。それから実際の民話語りを聴いた後，参加者全員が民話を語ることの醍醐味を体験する。

【タイムテーブル】

１．趣旨説明（鵜野）５分
２．岩手県における子どもたちの民話体験活動の紹介（前川，澤口）40 分
３．遠野の民話を語る（大平）15 分
４．ワークショップ　55 分
　①用意した昔話（7～8 話）のあらすじを紹介する。
　②自分が語りたい話に合わせてグループに分かれる（4～5 名ずつ）。
　③一緒に読み合わせをする。
　　＊話題提供者とサポーターがグループに入ってサポートする。
　④暗記する。
　⑤一人ずつグループ内の他の人に向かって語る。時間によって語り手の数を調整する。
５．締めくくりの挨拶（鵜野）５分

【ポスターセッション】

2025 年 6 月 7 日（土）15 時 50 分～17 時 50 分
188 会議室（兼会員控室）

幼稚園５歳児における生活準拠型の生活発表会の形成プロセスと意味
松原　未季（大阪信愛学院大学）

幼稚園における通園バスの導入時期と背景：周年誌に基づく歴史的考察
境　愛一郎（共立女子大学）

保育現場におけるノンコンタクトタイムの可能性を探る
―保育者への意識調査を通して―
百瀬　ユカリ（日本女子体育大学）
桐川　敦子（聖徳大学）
小久保　圭一郎（倉敷市立短期大学）
山下　佳香（川村学園女子大学）

自然豊かな環境で主体的に学んだ子どもたちの発達への影響
―よみたん自然学校の卒業生調査から―
小倉　宏樹（認定 NPO 法人よみたん自然学校／
日本女子大学学術研究員）
朝倉　香也代（日本女子大学大学院生）
中里　啓子（風の丘めぐみ保育園）
永島　さくら（江戸川学園おおたかの森専門学校／
日本女子大学学術研究員）
請川　滋大（日本女子大学）

ノルウェーの幼児教育における保育者のリーダーシップに関する
研究の現状と課題
松田　こずえ（武蔵野大学）

保育実践の変容に関する研究
―年齢別保育から異年齢保育への移行に着目して―
島田　知和（活水女子大学）

２日目　６月８日(日)

午前

【シンポジウム】

2025 年 6 月 8 日（日）10 時 00 分～12 時 20 分
188 会議室（兼会員控室）

岩手における防災・伝承活動から学ぶ

東日本大震災の発生から 14 年が経った。震災の影響を強く受けた子どもたちは成人し，現在の子どもたちのなかでは，震災当時やその直後の記憶がおぼろげとなっていることも少なくない。このような状況において，地域で大震災があったという過去を，子どもたちの学びのなかでどのように意味づけ継承すべきかという課題は，ますます重要になっている。

大震災の経験に関する学びは実際，「防災教育」，「安全教育」，「復興教育」といったようにさまざまな呼び名をもち，また「いのちの教育」や道徳教育などとも関連づけられながら展開している。学際的なアプローチが可能であり，またそれゆえに，曖昧さを含み難しいと感じられることも多いはずである。

大震災の経験に関する学びは，社会の多様な場で展開するという意味でも学際的になり得る。しかし，北東北で初めて開催される日本子ども社会学会大会でこのテーマを扱うならば，社会の多様な場のなかでも，世代を超えて文化を継承しながら創造する学校という場の普遍的な役割をとりあげないわけにはいかないだろう。

日本の「子ども社会」のもつ問題状況に対して，理論的のみならず実践的・臨床的に探究する本学会が，震災を取り巻く教育の目的や課題を議論することのできるひとつの重要な場になることを願い，岩手県で活動する方々をお招きする本シンポジウムを企画する。

【登壇者】
シンポジスト：齋藤　徳美（岩手大学（名））
シンポジスト：川崎　杏樹（うのすまい・トモス　いのちをつなぐ未来館）
シンポジスト：淺沼　ミキ子（ハナミズキのみちの会）
コメンテーター：加藤　理（2024 年度日本子ども社会学会学会長／
文教大学教育学部教授）

司会・企画趣旨説明：若林　陽子（岩手県立大学）

２日目　６月８日(日)

午後

【自由研究発表Ⅲ】

2025 年 6 月 8 日（日）13 時 50 分～15 時 20 分
181 会議室

Ⅲ－1　【　子どもと学校Ⅲ　】

司会　　片山　悠樹（愛知教育大学）

13 時 50 分～14 時 15 分
高等専修学校における学校経験は卒業後の社会生活に
どのような意味を持つのか

尾河　勇太（大阪大学大学院）

14 時 15 分～15 時 05 分
小学校教師による校内教育支援センターの再構築
―価値観の調整プロセスに着目して―

◯藤村　晃成（大分大学）
◯梅田　崇広（愛媛大学）
◯上山　那々（大阪府東大阪市立小学校）

15 時 05 分～15 時 20 分
総括討論

【自由研究発表Ⅲ】

2025 年 6 月 8 日（日）13 時 50 分～15 時 20 分
183・184 会議室

Ⅲ－2　【　地域連携と子ども支援　】

司会　　高橋　靖幸（新潟県立大学）

13 時 50 分～14 時 15 分
子育て支援サービスの利用による子育てにおけるサポートの獲得
―首都圏にある人口 20 万人規模の X 市を事例として―

毛塚　泰樹（一橋大学大学院）

14 時 15 分～14 時 40 分
大学と行政の共同による貧困対策事業
―生活困窮世帯の中学生の学びの保障と居場所づくり―

嘉納　英明（名桜大学）

14 時 40 分～15 時 05 分
まちづくり分野における「子どもの参画」論の歴史と現在

元森　絵里子（明治学院大学）

15 時 05 分～15 時 20 分
総括討論

【自由研究発表Ⅲ】

2025 年 6 月 8 日（日）13 時 50 分～15 時 20 分
185・186 会議室

Ⅲ－3　【　幼児の生活と指導　】

司会　　保木井　啓史（福島大学）

13 時 50 分～14 時 15 分
幼児教育施設における地域および地域変動に応じた環境構成

田中　謙（日本大学）

14 時 15 分～14 時 40 分
現代日本の保育記録論の諸層
―客観的記録批判の展開―

◯安部　高太朗（郡山女子大学短期大学部）
吉田　直哉（大阪公立大学）

14 時 40 分～15 時 05 分
指示としてのオノマトペ
―幼稚園での集団指導の相互行為に着目して―

粕谷　圭佑（奈良教育大学）

15 時 05 分～15 時 20 分
総括討論

【自由研究発表Ⅲ】

2025 年 6 月 8 日（日）13 時 50 分～15 時 20 分
187 会議室

Ⅲ－4　【　子どもの社会史　】

司会　　山田　富秋（社会理論・動態研究所）

13 時 50 分～14 時 15 分
学校文化と消費文化の親和的な関係性
―1970 年代後半から 1980 年代のサンリオ『いちご新聞』を分析して―

香川　楓子（京都大学大学院）

14 時 15 分～14 時 40 分
子ども研究における心理・精神をめぐる言説（3）

池田　隆英（岡山県立大学）

14 時 40 分～15 時 05 分
ハーバート・リードの教育思想におけるプラトン哲学の位置 ii

由良　知彦（元京都市立中学校）

15 時 05 分～15 時 20 分
総括討論

【テーマセッション②】

2025 年 6 月 8 日（日）15 時 30 分～17 時 30 分
181 会議室

〈仮題〉 子どもに働きかける「環境」の力

～自然のめぐみ豊かな岩手の地で考える～

企画担当者： 中村　美和子（お茶の水女子大学）
仙田　考（田園調布学園大学）

【趣旨説明文】

本学会では発足当初，アカデミズム内部に留まることなく「実践報告や子どもの観察結果について，現場で子どもと関わる方々と研究者が協同しながら科学化する試み」（加藤，2024，「『子ども社会レポート』の連載について」）が社会的使命の一つに志向されていた。学会初期を知る会員諸氏には，その実現への熱意と取り組みは，学術団体としての成熟化が進む 30 年を経て薄まりつつあると課題視され，再び「学会のアイデンティティでもある実践と研究の協同の場を積極的に創出」（同前）する企図により，2024 年度からホームページ上に「子ども社会レポート」の連載が開始された。

本企画はその流れを受け，子どもとの直接的関わりで得られる実践知の科学化に資すよう「環境」をテーマに取りあげ，学際的アプローチによる議論を深めていく。環境とは，人間を中心に考えた際，1）人的環境，2）物的環境，3）自然・社会の事象に大別される周囲の世界すべてを指す。本テーマの議論では，子どもが環境との相互作用によって発達していくことをふまえ，子どもと 3）の自然の事象，ならびに「子ども－自然の事象」を媒介する 1）の人的環境の二つに着目してみたい。

登壇予定者のうち澤口氏は長年，自然観察会を開き，子どもとともに触れたセンス・オブ・ワンダー体験を絵本やエッセイなど芸術・文学作品に昇華させてきた。造園家でもある仙田会員は，「駒形こどもの杜」保育教諭の方がたとともに，自然のめぐみ多い同園庭での子どもたちの体験をさらに充実させるためのプロジェクトを進行させている。深作会員は地域おこし，青少年育成など社会教育の場に身を置いた子どもとの豊富な関わりを背景とし，見守る側からの視座で環境醸成を探究している。

実践・研究対象としての「子ども―自然の事象」で繰り広げられる相互作用のダイナミズムは興味の尽きない広漠な領野であるが，子どもにとっての自然，子どもの遊びや学びにとっての援助者をトピックスに，学会員それぞれの日々の実践と研究に資す気づきやセンス・オブ・ワンダーを得られることを期し，議論の機会を創出したい。

【登壇予定者】

（1） 澤口　たまみ（非会員，作家・盛岡大学短期大学部准教授，
子どもと自然・自然と文学）

（2） 仙田　考（田園調布学園大学院准教授，子ども環境・自然保育）
認定こども園「駒形こどもの杜」（奥州市）保育教諭 2 名程度（非会員）

（3） 深作　拓郎（岩手大学大学院准教授，社会教育学・こども（遊び）環境学）

【ラウンドテーブルⅠ】

2025 年 6 月 8 日（日）15 時 30 分～17 時 30 分
183・184 会議室

テーマ

性教育のこれから：包括的性教育とはⅡ

コーディネーター	山田　富秋（社会理論，動態研究所）
司会者	臼杵　百合子（日本保健医療大学）
提案者	奥田　勝彦　（心の教育・性教育・人間教育を考える会／高校教諭）
	奥田　美菜子（心の教育・性教育・人間教育を考える会／高校教諭）
	及川　育美　（心の教育・性教育・人間教育を考える会／学童期児童保護者）

内容

昨年のラウンドテーブルに続き「性教育のこれから:包括的性教育とは」第二弾を討議します。前回の「学童期児童の保護者への性教育アンケート」から課題としてあげられた，男性（父親）への性教育アンケートの実施報告および，高校における性教育の実態と包括的性教育への取り組み等について討議を行い，今後の性教育の指針ともいうべき包括的性教育への理解を深めます。

【ラウンドテーブルⅡ】

2025 年 6 月 8 日（日）15 時 30 分～17 時 30 分
185・186 会議室

テーマ

日本の地震被災後における子ども文化と保育活動を考える

司会者	田中　浩之（群馬医療福祉大学）
提案者	田中　卓也（育英大学）
討論者	川村　高弘（神戸女子短期大学）
話題提供	田中　卓也（育英大学）
	田中　浩之（群馬医療福祉大学）
	丸山　ちはや（盛岡大学短期大学部）
	藤田　佳子（淑徳大学）
	中村　涼（安田女子短期大学）
	海老名　悠希（常磐大学）

内容

日本は直近 15 年の間に東日本大震災をはじめ熊本地震，能登半島地震などといった多くの地震を経験してきた。これら地震の発生によって伝統行事，風習，児童文化，児童文化材が失われたり，失われる危機を迎えているのではないだろうか。今後は南海トラフ地震など起こりうる可能性が高まるなかで，私たちは子ども文化を衰退させず，維持することができるのか？保育活動を通じて，どのように展開していくべきなのか，みなさんで考えたいという企画になります。

【ラウンドテーブルⅢ】

2025 年 6 月 8 日（日）15 時 30 分～17 時 30 分
187 会議室

テーマ

小学校教育につながる幼児期の学び

企画・司会　請川　滋大（日本女子大学）
話題提供者　木村　創（学校法人仙台こひつじ学園／認定向山こども園）
赤倉　健（社会福祉法人つぼみ会／LIFE SCHOOL 桐ヶ丘こどものもり）
指定討論者　高橋　健介（東洋大学）
永島　さくら（江戸川学園おおたかの森専門学校／日本女子大学学術研究員）

内容

架け橋期の教育が話題となっているが，小学校での教育を見据えた際，幼児の学びにはどういったものが期待されるだろうか。かつてのような，学校教育を先取りしたトレーニング型の幼児教育ではなく,「遊びを通しての学び」の中に子どもたちが学びへ向かう姿が見られるか。2 つの園から話題提供をして頂く。指定討論者として，遊びを通しての学びを深く追求する高橋氏と，2 歳から 3 歳にかけての移行期を研究する若手研究者の永島氏をお迎えしたい。

日本子ども社会学会　第31回大会実行委員会

実行委員	井上　一彦（岩手県立大学）	事務局長・会計担当
	呉　　書雅（岩手県立大学）	会場・ナーサリールーム担当
	西村　君平（東北大学）	会場・ナーサリールーム担当
	山沢　智樹（岩手県立大学）	シンポジウム担当
	若林　陽子（岩手県立大学）	シンポジウム担当
	渡部　芳栄（岩手県立大学）	実行委員長・ワークショップ担当

日本子ども社会学会　第31回大会　プログラム

発行日　2025年4月
編集・発行　日本子ども社会学会第31回大会実行委員会
〒020-0611　岩手県滝沢市巣子152-52
岩手県立大学　高等教育推進センター　渡部芳栄研究室内